

埼玉県知事賞

鳩山町立鳩山中学校 三年 スポタ ヒロ

妹と税

税について考えるとき、僕は妹のことを考える。十三トリソミーという染色体異常で生まれた僕の妹は色々なことができない。歩くことも、話すことも、一人で食事をとることだっただけできない。そんな妹が、家族の一員として普通に生活できているのは、色々な形での支援をうけているからだ。支援がなければ妹だけでなく、僕や僕の家族もとたんに普通に生活できなくなる。そんな妹が税によって受けている支援を三つ挙げてみた。

第一に、学校だ。妹は特別支援学校に通っている。僕が日本に来る前に住んでいたクロアチアでは、障害児が通える学校が整備されているわけではないため、クロアチアに残っていたら妹が学校に通うといった選択肢は考えられなかった。妹が学校に通えないとなると、家族の誰かが付きっきりで介護しなければならなくなる。一方で、妹の場合は六年生まで毛呂山特別支援学校、中学に進級してからは日高特別支援学校に通っている。このようなことができるのは、税金によって妹のような障害児が通える学校が整備されているからだ。障害の有無にかかわらず、学校に通うことができるのはとてもすごいことだと思う。

第二に、車椅子だ。妹は自力で歩行ができないため、車椅子が必要である。妹の成長に伴い、体重も増しているため、腰を痛めた母にかわって僕が妹を抱えることも多い。車椅子がない状態など想像できないが、僕が知っているだけでも車椅子は二台目である。車椅子は、妹のサイズにあわせて作るため、とても高価なものだが、母いわく、自費は全体のほんの一部で、ほとんどが公費で作られているそうだ。車椅子があるから妹も一緒に出かけることができると思うと、本当にありがたい。

最後に、デイサービスだ。妹は一人では何もできないため、いつも誰かがそばにいないといけない。一方で、僕の両親はそれぞれ仕事をしている。仕事を続けていられるのは、デイサービスに助けてもらっているからだと言っていた。両親が仕事をしないという選択肢は現実的にありえないため、両親が働き続けられる環境をつくるデイサービスはとてもありがたいのだ。

僕が挙げた三つの例以外にも、妹は様々な場面で税金に助けられている。税金は一般的には取られるばかりのものと思われがちだが、妹の生活を見ると、全くそのようなものではないことが分かる。僕が税金を納める立場になったときには、僕や僕の家族が普通に暮らしていくために必要な支援は、多くが税金でまかなわれていることを思い出し、気持ちよく納められるようにしたい。